

序 文

ぐんま天文台長 古 在 由 秀

平成13年度は、ぐんま天文台創立3年次にあたる。この年には群馬県では第16回国民文化祭が行われ、開会式へのテレビ参加が予定され、高山村では、「星空の街、あおぞらの街」全国大会が開かれ、多くの台員が参加し、そのために高山村に来られた高円宮夫妻は、この機会に来台された。

平成14年1月末に発見された極超新星SN2002apの出現にあたり、ぐんま天文台では、世界に先駆けてそのスペクトル写真を撮影し発表した。超新星出現以前にも同じ星野を撮影していたので、これらの貴重な報告は各種の専門誌や新聞などに掲載され、ぐんま天文台の名を世界に広める端緒となった。これ以外にも、数々の研究論文は研究員によって学術雑誌に発表され、研究活動も着実に進展している。150cm望遠鏡に取り付けられている赤外線観測装置も、超新星観測などでも活躍している。

今年度の来館者は16万人、そのうちの1万3千人が夜間の天体観望を行った。初年度に比べればかなり減少しているが、この数も定常化したものと思われる。また、天文台の利用方法も県民には周知されたと思われ、特に土曜日が晴天であれば、天体観望のための来館者が多くなり、昼間の施設見学者の数をこえる日もあった。

今年度の学校利用は合計54団体、述べ3000人をこえる生徒などが参加した。特別な天体現象をとらえて行う観察会も、部分月食説明会・観察会、ペルセウス座流星群やしし座流星群説明会・観察会などがあり、特にしし座流星群は話題になっていただけに、県民の日に行われた説明会には200人が参加し、その当日の観察会には1000人天文台に集って、沢山の流星の出現に酔いしれた。

ぐんま天文学学校は3つの話題について23人が参加して行われた。望遠鏡操作資格取得講習会は6回行われ、200名ほどの人が資格を取得した。占有利用を申し込み利用を予定した人は775名で、そのうち323名が利用した。利用できなかった人の主な理由は悪天候であった。

また、フィリピンから一名の研究者が7ヶ月、ベトナム・ハノイ大学からの研究者が3ヶ月滞在し、それぞれ必要な研修を行い、所定の成果をあげて帰国した。このような国際協力事業は、更に発展するであろう。

こうして、ぐんま天文台は、設立目的にそい活動を続けており、さらに成果をあげるように努力している。

目 次

1 概 要	
1 1 沿革	1
1 2 建設経過	1
1 3 組織・運営	2
1 4 施設概要	4
1 5 入館者一覧	6
2 望遠鏡・観測装置	
2 1 望遠鏡	7
2 2 観測装置	9
3 研究・教育支援設備	
3 1 図書	10
3 2 計算機システム	12
3 3 工作機械・実験室	12
3 4 外来客員研究室・長期滞在宿舎	13
4 観測研究活動	
4 1 観測研究活動実績	13
4 2 学術論文及び出版物	17
4 3 学会等における発表	19
4 4 研究会等における発表	20
4 5 講義・その他講演等	22
4 6 研究会等の開催	22
4 7 談話会	23
4 8 ぐんま天文台の機材を使用して出版された論文等	24
5 教育普及活動	
5 1 教育普及活動実績	24
5 2 一般観望会	26
5 3 団体予約利用	27
5 4 学校利用(チャレンジスクール等)	27
5 5 観察会・イベント	30
5 6 ぐんま天文学学校	31
5 7 望遠鏡・機材の占有利用	33
5 8 ホームページ	35
5 9 著作(新聞掲載等)	35
5 .10 広報誌発行	36
5 .11 ボランティア	36
5 .12 マスコミ等の取材	36
6 国際協力・海外出張	
6 1 国際協力	37
6 2 海外出張	37
7 委員・その他	38

序 文

ぐんま天文台長 古 在 由 秀

平成13年度は、ぐんま天文台創立3年次にあたる。この年には群馬県では第16回国民文化祭が行われ、開会式へのテレビ参加が予定され、高山村では、「星空の街、あおぞらの街」全国大会が開かれ、多くの台員が参加し、そのために高山村に来られた高円宮夫妻は、この機会に來台された。

平成14年1月末に発見された極超新星SN 2002apの出現にあたり、ぐんま天文台では、世界に先駆けてそのスペクトル写真を撮影し発表した。超新星出現以前にも同じ星野を撮影していたので、これらの貴重な報告は各種の専門誌や新聞などに掲載され、ぐんま天文台の名を世界に広める端緒となった。これ以外にも、数々の研究論文は研究員によって学術雑誌に発表され、研究活動も着実に進展している。150cm 望遠鏡に取り付けられている赤外線観測装置も、超新星観測などでも活躍している。

今年度の来館者は16万人、そのうちの1万3千人が夜間の天体観望を行った。初年度に比べればかなり減少しているが、この数も定常化したものと思われる。また、天文台の利用方法も県民には周知されたと思われ、特に土曜日が晴天であれば、天体観望のための来館者が多くなり、昼間の施設見学者の数をこえる日もあった。

今年度の学校利用は合計54団体、述べ3000人をこえる生徒などが参加した。特別な天体現象をとらえて行う観察会も、部分月食説明会・観察会、ペルセウス座流星群やしし座流星群説明会・観察会などがあり、特にしし座流星群は話題になっていただけに、県民の日に行われた説明会には200人が参加し、その当日の観察会には1000人天文台に集って、沢山の流星の出現に酔いしれた。

ぐんま天文学校は3つの話題について23人が参加して行われた。望遠鏡操作資格取得講習会は6回行われ、200名ほどの人が資格を取得した。占有利用を申し込み利用を予定した人は775名で、そのうち323名が利用した。利用できなかった人の主な理由は悪天候であった。

また、フィリピンから一名の研究者が7ヶ月、ベトナム・ハノイ大学からの研究者が3ヶ月滞在し、それぞれ必要な研修を行い、所定の成果をあげて帰国した。このような国際協力事業は、更に発展するであろう。

こうして、ぐんま天文台は、設立目的にそい活動を続けており、さらに成果をあげるように努力している。

目 次

1 概 要	
1 1 沿革	1
1 2 建設経過	1
1 3 組織・運営	2
1 4 施設概要	4
1 5 入館者一覧	6
2 望遠鏡・観測装置	
2 1 望遠鏡	7
2 2 観測装置	9
3 研究・教育支援設備	
3 1 図書	10
3 2 計算機システム	12
3 3 工作機械・実験室	12
3 4 外来客員研究室・長期滞在宿舎	13
4 観測研究活動	
4 1 観測研究活動実績	13
4 2 学術論文及び出版物	17
4 3 その他の出版物	19
4 4 学会等における発表	19
4 5 研究会等における発表	20
4 6 講義・その他講演等	22
4 7 研究会等の開催	22
4 8 談話会	23
4 9 ぐんま天文台の機材を使用して出版された論文等	24
5 教育普及活動	
5 1 教育普及活動実績	24
5 2 一般観望会	26
5 3 団体予約利用	27
5 4 学校利用(チャレンジスクール等)	27
5 5 観察会・イベント	29
5 6 ぐんま天文学校	31
5 7 望遠鏡・機材の占有利用	32
5 8 ホームページ	35
5 9 著作(新聞掲載等)	35
5 .10 広報誌発行	36
5 .11 ボランティア	36
5 .12 マスコミ等の取材	36
6 国際協力・海外出張	
6 1 国際協力	37
6 2 海外出張	37
7 委員・その他	38